

1/5/1

DIALOG(R)File 347:JAPIO

(c) 2004 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

04613040 **Image available**

SEAT DEVICE FOR VEHICLE

PUB. NO.: 06-284940 [JP 6284940 A]

PUBLISHED: October 11, 1994 (19941011)

INVENTOR(s): OKIYAMA HIROSHI

TAKADA KOJI

HONDO MASAHICO

APPLICANT(s): MAZDA MOTOR CORP [000313] (A Japanese Company or Corporation)
, JP (Japan)

APPL. NO.: 05-073101 [JP 9373101]

FILED: March 31, 1993 (19930331)

INTL CLASS: [5] A47C-007/14

JAPIO CLASS: 30.4 (MISCELLANEOUS GOODS -- Furniture); 26.2 (TRANSPORTATION
-- Motor Vehicles)

JOURNAL: Section: , Section No. FFFFFFFF, Vol. 94, No. 10, Pg. FFFFFFFF,
FF, FFFF (FFFFFFFF)

ABSTRACT

PURPOSE: To enable a passenger adjustment of a seat cushion length in the longitudinal direction without harming the passenger seated with a feeling of physical uncombortableness triggered by the tansformation of the seat cushion caused by its length adjustment in the longitudinal direction.

CONSTITUTION: This seat device is provided with a seat cushion 11 fixed in a way movable in the longitudinal direction under a pad 24 of which the front part 24F is both transformable and movable, a roller 18 which supports the bottom of 24F, front part of the pad 24, a movable arm member 20L which is fixed under the pad member 24 and moves the roller 18, etc., and an outer cover member 25 which covers the pad member 24 totally and the end thereof extending to cover the front part of the pad 24F is forced backward at a location underneath the front part 24F of the pad 24.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-284940

(43) 公開日 平成6年(1994)10月11日

(51) Int.Cl.¹

A 4 7 C 7/14

識別記号

庁内整理番号

C 8313-3K

A 8313-3K

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平5-73101
 (22) 出願日 平成5年(1993)3月31日

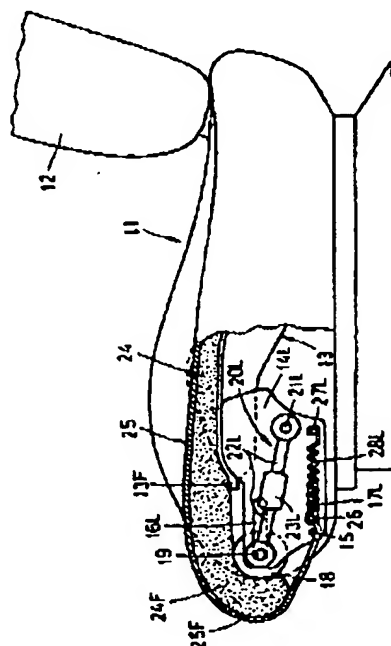
(71) 出願人 000003137
 マツダ株式会社
 広島県安芸郡府中町新地3番1号
 (72) 発明者 沖山 浩
 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ
 株式会社内
 (72) 発明者 高田 幸次
 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ
 株式会社内
 (72) 発明者 本藤 雅彦
 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ
 株式会社内
 (74) 代理人 弁理士 神原 貞昭

(54) 【発明の名称】 車両のシート装置

(57) 【要約】

【目的】シートクッション部の前後方向の長さ調整が可能とされ、しかも、前後方向の長さ調整に伴うシートクッション部の変形が、それに着座する乗員に違和感を与えることがないものとなす。

【構成】シートクッション部(11)が、前方部分(24F)が変形変位可能とされたパッド部材(24)、パッド部材(24)の下方に前後方向に移動可能とされて設けられ、パッド部材(24)の前方部分(24F)をその下方側から支えるローラー(18)、パッド部材(24)の下方に配されてローラー(18)を移動させる可動アーム部材(20L、20R)、及び、パッド部材(24)を全体的に覆い、その前方部分(24F)を包んで伸びる部分の端部が、パッド部材(24)の前方部分(24F)の下方において後方側に付勢された表皮部材(25)を備える。



(2)

特開平6-284940

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】車両の車室形成部におけるフロア部分上に配されるシートクッション部と該シートクッション部の後方部分側に配されたシートバック部とを有し、

上記シートクッション部が、該シートクッション部の略全体に亘って配されるとともにその前方部分が変形変位可能とされたパッド部材、該パッド部材の下方に前後方向に移動可能とされて設けられ、上記パッド部材の前方部分をその下方側から支える可動支持部材、上記パッド部材の下方に配されて上記可動支持部材を移動させるものとされた駆動手段、及び、上記パッド部材を全体的に覆い、上記パッド部材の前方部分を包んで伸びる部分の端部が、上記パッド部材の前方部分の下方において弾性部材により後方側に付勢された表皮部材を備えて成ることを特徴とする車両のシート装置。

【請求項2】可動支持部材が、前後方向に直交する回転軸方向を有するものとしたローラーを形成するものとされたことを特徴とする請求項1記載の車両のシート装置。

【請求項3】駆動手段が、可動支持部材が形成するローラーに連結されて該ローラーとの連結部分を前後方向に移動させる伸縮部材と、該伸縮部材を駆動するアクチュエータとを含んで成ることを特徴とする請求項2記載の車両のシート装置。

【請求項4】弾性部材が、一端部がシートクッション部のフレーム部材に固定され、他端部が表皮部材におけるパッド部材の前方部分を包んで伸びる部分の端部に連結されて、伸長状態とされるスプリング部材により成ることを特徴とする請求項1、2又は3記載の車両のシート装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、車両の車室形成部におけるフロア部分上に設置されて、車両の乗員の用に供される車両のシート装置に関する。

【0002】

【従来の技術】車両に整備されて乗員の用に供されるシート装置にあっては、特に、運転者用シートである場合、それに着座した乗員が、車両を運転し易い姿勢をとることができるとともに、身体全体が安定に支持される状態におかれ、さらには、長時間に亘って着座するものにおいても疲労を感じる度合いが小とされる状態におかれること等が要求される。また、運転者用シート以外のシートである場合にも、それに着座した乗員が、身体全体が安定に支持されるとともに、長時間に亘って着座するものにおいても疲労を感じる度合いが小とされる状態におかれること等が望まれる。

【0003】それ故、車両のシート装置は、それに着座する乗員の身体に適合した形状及び各部の寸法を有したものとされることが望まれる。しかしながら、公道上を

2

走行すべく使用される通常の車両にあっては、極めて特殊な場合を除き、その生産過程においてシート装置が組み付けられる時点では、それに着座する乗員が特定されていないのが一般的であり、従って、通常の車両に設置されるシート装置は、例えば、それに着座する乗員として極平均的な身体を有する者が想定され、その極平均的な身体を有する者に適合する形状及び各部の寸法を有したものとされるので、実用に供されるに際しては、それに着座する乗員の身体に適合した形状及び各部の寸法を有したものとされないことになる事態が少なからず生じる。

【0004】そこで、通常の車両のシート装置にあっては、例えば、車両の車室形成部内における設置位置の前後方向における調整を、予め設定された移動範囲内において行える調整機構、シートクッション部に対するシートバック部の角度調整を、予め設定された角度範囲内において行える調整機構、シートクッション部の高さ調整を、全体的あるいは部分的に、予め設定された移動範囲内において行える調整機構、さらには、シートクッション部あるいはシートバック部における乗員の身体に対する部分的な支持状態を予め設定された調整範囲内において変化させることができる調整機構等が備えられ、実用にあたって、斯かる各種の調整機構の作用により、着座する乗員の身体に対する適合状態の改善を図ることができるようになることが多い。

【0005】そして、このような調整機構を備えた車両のシート装置として、例えば、実開平4-42431号公報にも記載されている如くに、シートクッションが後部クッションと前部クッションとに分割されたものとされ、シート全体が前後方向に予め設定された移動範囲内において移動可能とされるとともに、シート全体の前後方向における移動に連動して、シート全体の位置が前方におかれるときと後方におかれるときとで前部クッションの前後方向の長さが変化せしめられる構造がとられ、それにより、シートクッションの前後方向の長さが調整されるものも提案されている。斯かる従来提案されているシート装置にあっては、シート全体が前後方向の移動範囲内における前方に位置せしめられる際には、シートクッションの前後方向の長さが短縮され、また、シート全体が前後方向の移動範囲内における後方に位置せしめられる際には、シートクッションの前後方向の長さが伸長されて、着座する乗員の身体に対する適合状態の改善が図られるようになされている。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】上述の如くに、シートクッションの前後方向の長さ調整が可能とされた車両のシート装置においては、そのシートクッションの前後方向の長さ調整が、シートクッションが後部クッションと前部クッションとに分割されたもので、前部クッションが回転せしめられることにより姿勢を変化させてその前

(9)

特開平6-284940

3

後方向の長さを変化させることにより行われる。それにより、シートクッションの前後方向の長さが短縮された状態と伸長された状態とでは、前部クッションと後部クッションとの境界部分の形状、及び、前部クッションの上方への突出状態等が異なることになり、斯かるシートクッションにおける形状の相違が、それに着座する乗員に違和感を与えることになって、乗員が安定な支持がなされているという実感を得ることができないという状態におかれることになる虞がある。

【0007】斯かる点に鑑み、本発明は、シートクッション部の前後方向の長さ調整が可能とされ、しかも、前後方向の長さ調整に伴うシートクッション部の変形が、それに着座する乗員に違和感を与えることがなく、それにより、乗員が安定な支持がなされているという実感を得ることができるとともに、身体に部分的な疲労を感じることになる事態がまねかれないことになる車両のシート装置を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上述の目的を達成すべく、本発明に係る車両のシート装置は、車両の車室形成部におけるフロア部分上に配されたシートクッション部とその後方部分側に配されたシートバック部とを有して構成され、シートクッション部が、そのシートクッション部の略全体に亘って配されるとともにその前方部分が変形変位可能とされたパッド部材と、パッド部材の下方に前後方向に移動可能とされて設けられ、パッド部材の前方部分をその下方側から支える可動支持部材と、パッド部材の下方に配されて可動支持部材を移動させるものとされた駆動手段と、パッド部材を全体的に覆い、パッド部材の前方部分を包んで伸びる部分の端部が、パッド部材の前方部分の下方において弾性部材により後方側に付勢された表皮部材とを備えて成るものとされる。

【0009】

【作用】上述の如くの構成とされる本発明に係る車両のシート装置においては、駆動手段によって可動支持部材が後方に移動せしめられるとき、シートクッション部の略全体に亘って配されたパッド部材における変形変位可能とされた前方部分が、それを下方側から支持する可動支持部材の前方において下方側に変形変位するものとされ、パッド部材の前方部分の下方において弾性部材により後方側に付勢された端部を有する表皮部材によって、可動支持部材の前方において下方側に変形変位した前方部分を含むパッド部材の全体が、その緩みあるいは弛み等を伴うことなく覆われるものとされ、それにより、シートクッション部が、それに着座する乗員に違和感を与える変形を生じることなく、その前後方向の長さが後方側に短縮されるものとなされる。また、駆動手段によって可動支持部材が、後方に移動せしめられた状態から前方に移動せしめられるとき、パッド部材にお

4

ける変形変位可能とされた前方部分が、それを下方側から支持する可動支持部材の前方への移動に伴って前方に突出するものとされるとともに、パッド部材の前方部分の下方において弾性部材により後方側に付勢された端部を有する表皮部材によって、前方に突出した前方部分を含むパッド部材の全体が、その緩みあるいは弛み等を伴うことなく覆われて、シートクッション部が、それに着座する乗員に違和感を与える変形を生じることなく、その前後方向の長さが前方側に伸長せしめられるものとされる。

10

【0010】従って、本発明に係る車両のシート装置においては、それに着座する乗員に応じてシートクッション部がその前後方向の長さが短縮される状態とシートクッション部がその前後方向の長さが伸長せしめられる状態とが選択的にとられて、シートクッション部の長さが変化せしめられ、着座する乗員の身体に対する適合状態の改善が図られる。そして、着座する乗員が、シートクッション部及びシートバック部による安定な支持がなされているという実感を得ることができるとともに、身体に部分的な疲労を感じることになる事態を回避できることになる。

20

【0011】

【実施例】図2、図3及び図4は、本発明に係る車両のシート装置の一例の構成を示す。この図2～4に示される例は、車両の車室形成部におけるフロア部分上に、例えば、車両についての前後方向（以下、単に前後方向という）に所定の範囲内で移動可能とされて配されるシートクッション部11と、シートクッション部11の後方部分側において、例えば、シートクッション部11に対して揺動可能とされて配されたシートバック部12とを有したものとされている。

30

【0012】シートクッション部11は、板状材料によって形成されたフレーム部材13を備えている。そして、フレーム部材13の前方左側部分及び前方右側部分には、左右方向（前後方向に直交する）において相互対向するものとされた一对のブラケット14L及び14Rが夫々固着されており、これらブラケット14L及び14Rは、各々の下方部分が左右方向に伸びる棒状部材15によって相互連結されている。ブラケット14Lは、フレーム部材13の前方左側部分から前方に向かって突出しており、夫々が前後方向に伸びるものとされた2個の長孔16L及び17Lが設けられている。また、ブラケット14Rは、フレーム部材13の前方右側部分から前方に向かって突出しており、夫々が前後方向に伸びるものとされた2個の長孔16R及び17Rが、夫々、ブラケット14Lに設けられた長孔16L及び17Lに対応するものとされて設けられている。

40

【0013】ブラケット14Lとブラケット14Rとの間には、左右方向に伸びるローラー18が、その軸部材19の左端部分をブラケット14Lに設けられた長孔1

50

(4)

特開平6-284940

5

6 Lを貫通してその長孔16 Lにより支持されるものとするとともに、その軸部材19の右端部分をブラケット14 Rに設けられた長孔16 Rを貫通してその長孔16 Rにより支持されるものとして、配されている。従って、ローラー18は、軸部材19の左端部分及び右端部分が夫々長孔16 L及び16 R内において動ける範囲で、フレーム部材13に対して前後方向に移動可能とされている。

【0014】ローラー18の軸部材19における長孔16 Lを貫通して伸びる左端部分は、ブラケット14 Lの外側において、可動アーム部材20 Lに回動可能に連結されており、また、ローラー18の軸部材19における長孔16 Rを貫通して伸びる右端部分は、ブラケット14 Rの外側において、可動アーム部材20 Rに回動可能に連結されている。可動アーム部材20 Lは、一端部がローラー18の軸部材19における左端部分に連結されるとともに他端部がブラケット14 Lに植立されたピン21 Lにそれを支軸として回動可能に係合した伸縮ロッド部材22 Lと、伸縮ロッド部材22 Lの中間部分に設けられたアクチュエータ23 Lとを含んで構成され、アクチュエータ23 Lの作動によって伸縮ロッド部材22 Lが伸長もしくは縮小せしめられる。また、可動アーム部材20 Rは、一端部がローラー18の軸部材19における右端部分に連結されるとともに他端部がブラケット14 Rに植立されたピン21 Rにそれを支軸として回動可能に係合した伸縮ロッド部材22 Rと、伸縮ロッド部材22 Rの中間部分に設けられたアクチュエータ23 Rとを含んで構成され、アクチュエータ23 Rの作動によって伸縮ロッド部材22 Rが伸長もしくは縮小せしめられる。

【0015】従って、ブラケット14 Lとブラケット14 Rとの間に配されたローラー18は、その軸部材19の両端部分が、夫々、ブラケット14 Lに設けられた長孔16 L及びブラケット14 Rに設けられた長孔16 Rによって支持されるとともに、ブラケット14 Lに植立されたピン21 Lを支軸として回動可能に配され、伸縮するものとされた可動アーム部材20 L、及び、ブラケット14 Rに植立されたピン21 Rを支軸として回動可能に配され、伸縮するものとされた可動アーム部材20 Rに連結されたものとされている。そして、斯かるローラー18は、可動アーム部材20 L及び20 Rにおけるアクチュエータ23 L及び23 Rが作動せしめられて、可動アーム部材20 L及び20 Rにおける伸縮ロッド部材22 L及び22 Rが伸長もしくは縮小せしめられることにより、長孔16 L及び長孔16 Rの各々の長さの範囲内で前後方向に移動せしめられる。

【0016】フレーム部材13上には、そのフレーム部材13の全体を覆う弾性材料で成るパッド部材24が配されている。このパッド部材24の前方部分24 Fは、フレーム部材13の前端部分13 Fを越えてさらに前方

6

へと伸び、変形変位可能なものとされた状態をもって、ブラケット14 Lとブラケット14 Rとの間に配されたローラー18によって下方側から支持されるものとなっている。

【0017】さらに、フレーム部材13の全体を覆うものとされたパッド部材24は、例えば、皮革製あるいは織物製とされた表皮部材25によって、全体的に覆われている。パッド部材24の前方部分24 Fを包んで伸びるものとされた、表皮部材25における前方部分25 Fは、シートクッション部11の前端部分を形成して、パッド部材24の前方部分24 F及びローラー18の夫々の下方にまで伸びており、その先端部が、両端部がブラケット14 Lに設けられた長孔17 L及びブラケット14 Rに設けられた長孔17 Rに夫々係合せしめられた左右方向に伸びるロッド部材26に取り付けられている。

【0018】表皮部材25の前方部分25 Fにおける先端部が取り付けられたロッド部材26は、ブラケット14 Lに設けられた長孔17 Lを貫通して伸びる左端部分が、ブラケット14 Lの外側において、一端部分がブラケット14 Lに植立されたピン27 Lに掛け止めされ、ブラケット14 Lを介してフレーム部材13に固定されたスプリング部材28 Lの他端に係合するものとされ、また、ブラケット14 Rに設けられた長孔17 Rを貫通して伸びる右端部分が、ブラケット14 Rの外側において、一端部分がブラケット14 Rに植立されたピン27 Rに掛け止めされ、ブラケット14 Rを介してフレーム部材13に固定されたスプリング部材28 Rの他端に係合するものとされている。スプリング部材28 Lは、ロッド部材26の左端部分を長孔17 Lの後端側に付勢し、また、スプリング部材28 Rは、ロッド部材26の右端部分を長孔17 Rの後端側に付勢しており、それにより表皮部材25の前方部分25 Fが後方側に付勢された状態におかれている。従って、表皮部材25の前方部分25 Fは、パッド部材24の前方部分24 F及びローラー18の夫々の下方においてスプリング部材28 L及び28 Rにより後方側に付勢された状態のもとで、その先端部が、ブラケット14 Lに設けられた長孔17 L及びブラケット14 Rに設けられた長孔17 Rの夫々の長さの範囲内で前後方向に移動することができるものとされている。

【0019】上述の如くの構成のもとで、ローラー18は、パッド部材24の前方部分24 Fに対する可動支持部材を形成しており、また、ローラー18に連結された可動アーム部材20 L及び20 Rの夫々は、可動支持部材に対する駆動部を形成していることになる。そして、可動支持部材を形成するローラー18に連結された駆動部を形成する可動アーム部材20 L及び20 Rに夫々配されたアクチュエータ23 L及び23 Rは、図示が省略された操作部が操作されることにより、相互に同期して作動状態をとるものとされ、それにより可動アーム部材

(5)

特開平6-284940

7

8

20L及び20Rに夫々備えられた伸縮ロッド部材22L及び22Rに伸長状態もしくは縮小状態をとらせる。そして、アクチュエータ23L及び23Rに対する操作部は、シートクッション部11に着座した車両の乗員によって操作される。

【0020】例えば、シートクッション部11に着座した車両の乗員によって操作部が操作され、それによって、アクチュエータ23L及び23Rが、夫々、伸縮ロッド部材22L及び22Rに縮小状態をとらせる場合、伸縮ロッド部材22L及び22Rは、図3において実線により示され、さらに、図4に示される如くに、ローラー18の軸部材19がブラケット14Lに設けられた長孔16L及びブラケット14Rに設けられた長孔16Rの夫々の後端に係合する状態、即ち、ローラー18がその前後方向における可動範囲内において最も後方の位置におかれる状態とされるまで縮小され得るものとなされる。一方、シートクッション部11に着座した車両の乗員によって操作部が操作され、それによって、アクチュエータ23L及び23Rが、夫々、伸縮ロッド部材22L及び22Rに伸長状態をとらせる場合、伸縮ロッド部材22L及び22Rは、図3において二点鎖線により示され、さらに、図1に示される如くに、ローラー18の軸部材19がブラケット14Lに設けられた長孔16L及びブラケット14Rに設けられた長孔16Rの夫々の前端に係合する状態、即ち、ローラー18がその前後方向における可動範囲内において最も前方の位置におかれる状態とされるまで伸長され得るものとなされる。

【0021】このようにして、ローラー18がその前後方向における可動範囲内における最も後方の位置から最も前方の位置までの間における位置変化を生じるものとされることに伴って、シートクッション部11における前方部分が伸縮されることになり、それにより、シートクッション部11の前後方向における寸法、即ち、シートクッション部11の前後方向の長さが、ローラー18の前後方向における可動範囲に応じたものとなる可変範囲内において変化せしめられることになる。

【0022】図3において実線により示され、さらに、図4に示される如くに、ローラー18の軸部材19がブラケット14Lに設けられた長孔16L及びブラケット14Rに設けられた長孔16Rの夫々の後端に係合する状態においては、ローラー18がその前後方向における可動範囲内において最も後方に位置する状態におかれる。このとき、表皮部材25の前方部分25Fにおける先端部が取り付けられたロッド部材26は、スプリング部材28L及び28Rによる付勢力を受けて、ブラケット14Lに設けられた長孔17L及びブラケット14Rに設けられた長孔17Rの夫々の後端に係合する状態とされる。

【0023】従って、斯かるもとでは、パッド部材24の前方部分24Fは、その前後方向における可動範囲内

30

20

30

40

50

において最も後方に位置する状態におかれたローラー18により支持されるとともに、表皮部材25の前方部分25Fにより包まれて、全体的にローラー18の前方において下方に変位せしめられるものとされ、その先端部がローラー18の下方となる位置まで達するものとされる。その際、表皮部材25の前方部分25Fにおける先端部がスプリング部材28L及び28Rによる付勢力によって後方側に付勢されていることにより、表皮部材25の緩みあるいは弛み等が生じることはない。このように、パッド部材24の前方部分24Fが、その前後方向における可動範囲内において最も後方に位置する状態におかれたローラー18により支持されるとともに、表皮部材25の前方部分25Fにより包まれた状態にあっては、シートクッション部11の前後方向の長さが、その可変範囲内において最短とされることになる。

【0024】そして、シートクッション部11の前後方向の長さが、その可変範囲内において最短とされることになるもとでは、シートクッション部11の前端部分が、図4に示される如くに、パッド部材24の前方部分24Fがローラー18により支持されるとともに表皮部材25の前方部分25Fにより包まれるものとされて、滑らかで破綻無く隆起した外面形状をもって形成される。それにより、シートクッション部11は、その前後方向の長さが可変範囲内において最短とされる場合であっても、それに着座する乗員に違和感を与えず、且つ、乗員にその身体の安定な支持を実感させるとともに、身体の部分的な疲労を感じさせないものとされる。

【0025】一方、図3において二点鎖線により示され、さらに、図1に示される如くに、ローラー18の軸部材19がブラケット14Lに設けられた長孔16L及びブラケット14Rに設けられた長孔16Rの夫々の前端に係合する状態においては、ローラー18がその前後方向における可動範囲内において最も前方に位置する状態におかれる。このような状態に至るにあたり、表皮部材25の前方部分25Fにおける先端部が取り付けられたロッド部材26は、ローラー18の前方への移動に伴い、スプリング部材28L及び28Rによる付勢力に抗して、ブラケット14Lに設けられた長孔17L及びブラケット14Rに設けられた長孔17Rの夫々に沿って前方に移動せしめられ、長孔17L及び長孔17Rの夫々の前端に係合する状態とされる。

【0026】斯かるもとでは、パッド部材24の前方部分24Fは、その前後方向における可動範囲内において最も前方に位置する状態におかれたローラー18により支持されるとともに、表皮部材25の前方部分25Fにより包まれて、全体的に前方に突出するものとされ、その先端部はローラー18の前方となる位置まで上昇せしめられる。この場合においても、表皮部材25の前方部分25Fにおける先端部がスプリング部材28L及び28Rによる付勢力によって後方側に付勢されていること

(6)

特開平6-284940

9

により、表皮部材25の緩みあるいは弛み等が生じることはない。このように、パッド部材24の前方部分24Fが、その前後方向における可動範囲内において最も前方に位置する状態におかれたローラー18により支持されるとともに、表皮部材25の前方部分25Fにより包まれた状態にあっては、シートクッション部11の前後方向の長さが、その可動範囲内において最長とされることになる。

【0027】そして、シートクッション部11の前後方向の長さが、その可動範囲内において最長とされることになるもとにあって、シートクッション部11の前端部分が、図1に示される如くに、パッド部材24の前方部分24Fがローラー18により支持されるとともに表皮部材25の前方部分25Fにより包まれるものとされて、滑らかに破綻無く隆起した外面形状をもって形成される。それにより、シートクッション部11は、その長さが可動範囲内において最長とされる場合において、それに着座する乗員に違和感を与えず、且つ、乗員にその身体の安定な支持を実感させるとともに、身体の部分

【0028】

【発明の効果】以上の説明から明らかな如くに、本発明に係る車両のシート装置によれば、可動支持部材がその前後方向における可動範囲内における後方におかれるとき、シートクッション部の略全体に亘って配されたものとされるパッド部材における変形変位可能とされた前方部分が、それを下方側から支持する可動支持部材の前方において下方側に変形変位し、それとともに、パッド部材の前方部分の下方において弾性部材により付勢された端部を有する表皮部材によって、下方側に変形変位された前方部分を含むパッド部材の全体が、その緩みあるいは弛み等を伴うことなく覆われて、シートクッション部が、それに着座する乗員に違和感を与える変形を生じることなく、その前後方向の長さが後方側に短縮されたものとなされる。また、駆動手段によって可動支持部材が、その前後方向における可動範囲内における前方におかれるときには、パッド部材における変形変位可能とされた前方部分が、それを下方側から支持する可動支持部材の前方への移動に伴って前方側に突出せしめられ、それとともに、パッド部材の前方部分の下方において弾性部材により付勢された端部を有する表皮部材によって、

10

前方側に突出せしめられた前方部分を含むパッド部材の全体が、その緩みあるいは弛み等を伴うことなく覆われて、シートクッション部が、それに着座する乗員に違和感を与える変形を生じることなく、その前後方向の長さが前方側に伸長せしめられたものとされる。

【0029】従って、本発明に係る車両のシート装置においては、それに着座する乗員に応じてシートクッション部がその前後方向の長さが短縮せしめられる状態とシートクッション部がその前後方向の長さが伸長せしめられる状態とが選択的にとられて、シートクッション部の長さが変化せしめられ、着座する乗員の身体に対する適合状態の改善が図られる。そして、着座する乗員が、シートクッション部及びシートバック部による安定な支持がなされているという実感を得ることができるとともに、身体に部分的な疲労を感じるようになる事態を回避できることになる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る車両のシート装置の一例を示す一部断面図を含む部分側面図である。

【図2】図1に示される例におけるシートクッション部の構成の説明に供される斜視図である。

【図3】図1に示される例についての一部断面平面図である。

【図4】図1に示される例についての一部断面図を含む部分側面図である。

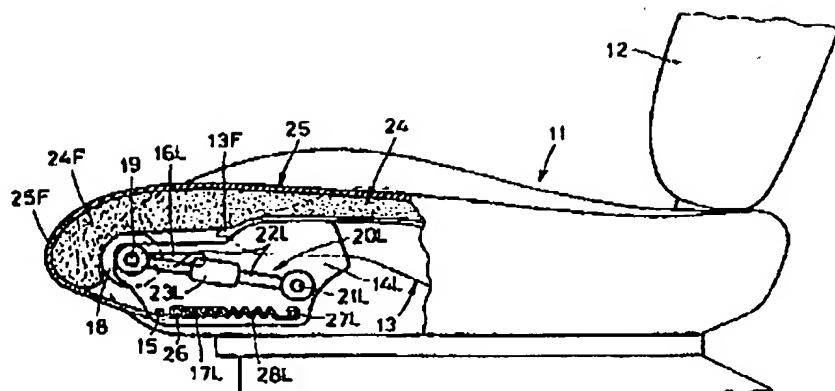
【符号の説明】

- 11 シートクッション部
- 12 シートバック部
- 13 フレーム部材
- 14 L, 14 R ブラケット
- 16 L, 16 R, 17 L, 17 R 長孔
- 18 ローラー
- 20 L, 20 R 可動アーム部材
- 22 L, 22 R 伸縮ロッド部材
- 23 L, 23 R アクチュエータ
- 24 パッド部材
- 24 F 前方部分 (パッド部材)
- 25 表皮部材
- 25 F 前方部分 (表皮部材)
- 26 ロッド部材
- 28 L, 28 R スプリング部材

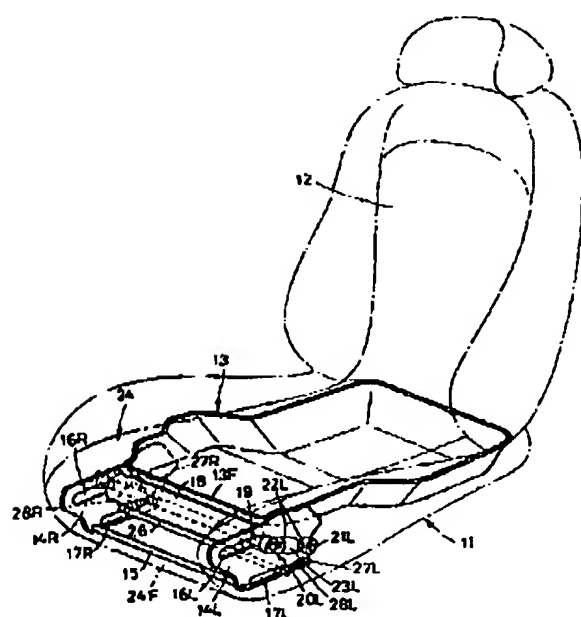
(7)

特開平6-284940

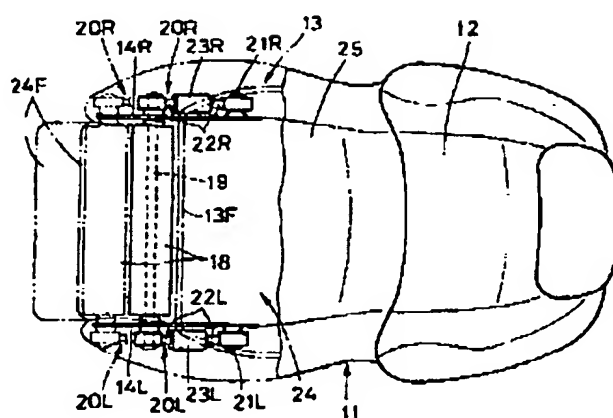
【図1】



【図2】



【図3】



(8)

特開平6-284940

【図1】

